



# 動労千葉

86. 8. 12

No. 2317

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)  
(鉄電)二九三五・六 (公衆)〇四七二(22)七二〇七

## 俺たちは鉄路に生きる

中野委員長 (長著) 動労千葉

# 珠玉の必勝訓

### 中から聞いて つかんだ

## 全国鉄労働者の必読の書ー中からの武器

「自から流す血と汗」こそが

勝利への第一歩

七月に入り、「人材活用センター」設置からはじまり、「自民圧勝」、動労、鉄労のマル生組合大会、動労総評脱退、そして、国労大会と国鉄分割・民営化をめぐる情勢は急ピッチで動きだした。動労・鉄労は中曽根、杉浦と結託して「国労解体」を叫んでいる。にもかかわらず国労は「右往左往」したあげくに総評・社会党にゲタをあずける「大胆な妥協」路線に走った。いくら国労が屈服しても敵の攻撃はやむわけがない。

中野委員長は著書の中で「国鉄分割・民営化攻撃は粉碎することが全く可能なのだ。その第一のカギは、十万人をこす首切りを強要されている国鉄労働者の実力決起にかかっている。自分から血を流さずして本当の支持は得られない。このまま黙ってれば国鉄労働者の全人格、全人生が本当に破壊されてしまう。こんなことは許せない。自らの運命は自らの手で切り拓いていく」と記している。

「敵以上の必死さ」が活路を開く

動労千葉は、二波のストライキに決起した。中曽根・杉浦は二十八名の大量解雇攻撃をかけてきた。「敵は不安でしかたがない。分割・民営化の大陰謀が幾多の矛盾点に満ち満ちていることは敵がいちばんよく知っている。だからこそ、国鉄労働者の抵抗を根こそぎにできなければ不安要因が消えない。この不安要因は、無限にひろがる可能性をもつ。敵はたかだか一〇〇名のストに対してわれわれが考える以上に革命のヒドラを見たのだ。だからあせっており余裕がない。逆に言えば国鉄労働者が敵以上に必死にたたかい続ければ勝利できる」。改革とは名ばかりでベテ、デマからなる攻撃に国鉄労働者の三人に一人が首を切られようとしている時、このとき血を流してでも闘わないでどうして支持が得られようか。国鉄労働運動の、日本労働者階級の生か死かが問われている今、もはや「中間の道」などないのだ。動労革マル・鉄労の奴隷への道か、動労千葉の道か、をすべての国鉄労働者に訴えかけている。そして、果敢に闘う動労千葉の組合員には、さらなる勇気と勝利への展望を与えてくれる書であると思う。

## 10万人首切り、財界の国鉄横奪を許すな!

### ストライキの最前線にたつ 動労千葉委員長の熱烈なアピール



階級の未来をかけた たたかひがある

鎌倉孝夫 (埼玉大学教授)

財界による国鉄の分割、横奪という一大ベテーン...それを遂行するために労働者を差別・選別し、人権をうばい、組織を破壊する。まじい攻撃がかけられている。労働者はこの攻撃の前に屈服したかに見える。しかし、労働者は決してひるんではいけない。これに組織をあけて、敢然と対抗する部隊がいる。ここに鉄路以外に失なうべき何ものもない真の労働者の姿がある。生命をかけ、階級の未来をかけたたたかひがここにある。

定価★1400円 / 送料200円 四六判・224頁 / 写真多数  
●全国の書店で好評発売中

社会評論社  
東京都文京区本郷2-5-10  
☎03(814)3861  
郵便振替・東京7-89969

- 主要目次
- 【アラビア】動労千葉はストライキで元気になる
- 反響を開始した国鉄労働者
- ワンとベテンの国鉄再建委員会
- 三人に一人の首がとぶ
- 去るも地獄、残るも地獄
- なぜストライキでたたかうか
- ついに24時間ストライキへ
- 空前の弾圧体制下の決起
- パンチが効いたか
- 情勢が大きく動きはじめた
- ハラをすえなきやケンカはできない
- 真価が問われた第二波闘争
- 「動労千葉はスッポンだ」
- 第二波ストライキと39日間の仕舞なたたかひ
- 座して死を待つより
- 国労の仲間たちへ / 共に反撃しよう
- 松崎明の正体みたり
- 敵の軍門に下った動労革マル
- 敵も胸つき八丁だ
- 国鉄労働者の試験と勝利への道

★全国で爆発的売れ行き! すでに「一刷」分は売り切れ... 緊急「二刷」増刷出来、お早目にお求め下さい!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!